

## 東日本大震災に係る医師派遣支援を振り返って

福井大学医学部産科婦人科学教室 服部 克成

3年前の東日本大震災の際に、日本産婦人科学会から福井大学へ医師派遣要請がありました。西島浩二先生と服部の2名が立候補し、宮城県石巻市にある石巻赤十字病院に診療支援に参りました。そのときの記録を、小さなノートに日記として記していましたが、いつか無くなってしまいそうで不安でした。あれから、3年の月日が経とうとしていますが、あの1週間は、僕にとって大変貴重な経験でした。ノートを見返しながら、1週間の出来事を振り返ります。

8月19日(金)

12:05 定刻より5分遅れて小松発→予定通り仙台空港に到着。機体はボンバルディア社の小さなジェット機で、50席と小さい。仙台が近づくにつれて緊張してくるのがわかった。機窓からは山間の建物で、ブルーシートがかかっているものが見えた。地震の影響であろうか？仙台空港→仙台駅まではバスで行った。途中、つぶれた車が山になっている所、川の岸壁のコンクリートが壊れている所、田んぼの中の自動車の残骸、そして、使われていない田んぼが、津波のあとを物語っていた。仙台市内に近づくとそのような跡は見つからなくなった。仙台駅から徒歩でホテルへ。本日は仙台市内に泊まって、明日タクシーで石巻に向かう。

ホテルについて30分後ぐらいに大きな余震があった。M.6.3、震度5。ホテルは横に揺れたが大丈夫であった。こういった余震が、数日に1回起こるのであろうか。

杏林大学の先生と電話。明日の申し送りを10:30~11:00ころとした。西島先生は、天候と余震のため、到着が遅くなると連絡があった。

夜は一人、吉野家で済ませ、シャワーを浴びて休んだ。



8月20日(土)

9:15 ホテルをチェックアウトし、タクシーで石巻へ。午前中は石巻や気仙沼へ向かう車で高速は若干混雑するとのことであったが、約束の時間もあり、高速を利用してもらった。何か所か渋滞があったが、1時間ほどで石巻赤十字病院へ到着。

3F 西婦人科病棟へ、杏林の先生(2人とも女医さん)に会い、申し送りを受ける。なんと、帝王切開を決定したところとのこと(39w、陣発、臍帯下水)。手術室ナースの到着を待ち、それから帝王切開を開始することとした。その前に杏林の先生にご苦勞様、と伝えた直後に近医から母体搬送の依頼があった、妊娠36w、妊娠高血圧腎症、血圧190mmHg超え、頭痛+とのこと。小児科に確認しOKをもらって受け入れ決定。1件目の帝王切開を開始した。麻酔は硬膜外+腰椎麻酔で麻酔科がかけて下さる。Opeは常勤の長谷川先生と西島先生。正中切開、筋膜をクーパーで一気に開け、腹膜もメスで開いたのを確認後一気にクーパーで切開。メスで漿膜ごと子宮を横切開し、子宮筋層を手動的に広げて胎児娩出。児娩出後、左右断端を結紮後、内膜を連続縫合、そのあと筋層をZ字縫合。漿膜は合わせず、セプラフィルムで癒着防止。ダグラス窩・子宮切開部を確認し、閉腹。表皮は埋没縫合し、ステリテープで止め、あみあみのパッドを張って終了。

1件目の帝王切開が終わる直前に、近医からの母体搬送が到着。病棟で診察。43歳の1回経産婦、妊娠36w1d、血圧176/100mmHg、頭痛は軽快、胎児の推定体重は3000g、下肢浮腫2+、顔面浮腫なし、胎児心拍モニタリングはreassuring patternであった。待機の必要なしと考え帝王切開を決定した。夫の到着を待って(1時間ほど)ope出し。Opeを待っている間に妊娠14wの性器出血と、妊娠29wの下腹部のちくちくした痛みの人よりTELあり、受診希望とのこと、OKした。

ope 出し後に 14w の人が来院したとの連絡あり、西島先生に診察を依頼した。帝王切開は長谷川先生と服部、スムーズにすすみ 37 分で終了。西島先生に連絡したところ、14w・29w の両方の人の診察が済み、内服処方し、帰宅となったとのことであった。

西島先生は宿舎へ行き、服部が当直。

18 時頃 2 件目帝王切開の人の悪露が多いと病棟から連絡があった。マグネゾールを投与していたため、子宮収縮が悪かったようだ。クスコ診をして、落ち着いていることを確認し、アトニンを追加した。その後出血は減少した。

夜中、東北大学から TEL あり。子宮頸癌 IIb で CCRT 後の患者さんが下痢・腹痛・悪心で石巻赤十字病院受診を希望しているとのこと。OK し、FAX を送ってもらう。その後患者さんは徒歩で受診した。救急 Dr. が診察し、胃腸炎らしいとのことで、そのまま帰宅となった。その他、病棟より複数回コールあった。

8 月 21 日 (日)

AM4:30 頃地震あり、震度 3。寝ていて何か揺れるな一との感じであったが、一瞬ドスンとの音があり、目覚める。念のため、病棟に行き、異常がないことを確認し、再度当直室で、眠る。

朝のニュースで今日は雨、最高気温 23℃とのこと。帰りに何か羽織るものでも買って帰る必要があるか？

西島先生に申し送りし、当直を交代した。

タクシーで宿舎の“マイルーム石巻”へ、道に慣れたタクシーで、裏道を通っていた。道に凹凸あり、尋ねたところ、やはり地震のためとのこと、当初はもっと凸凹していたが、舗装しこれでも大分良くなったとのこと。途中の小さな公園にも仮設住宅があった。

宿舎は古いアパートであった。金券と鍵をうけとり部屋へ。落ち着いてからタクシーで近所のイオンへ出かけた。

イオンのショッピングモールは大きく、たくさんの店があり、マイカルシネマもあった。食事をし、病棟用のシューズと西島先生に頼まれていた USB マウスを購入。あとは本屋へ行き、そこで 2 時間ほど立ち読みした。スーパーでお茶・コーヒーとお菓子を購入。

ちょうどイオンの中で 24 時間テレビをやっており、内山くんがロケしているところであった。

先ほどのタクシーを呼び宿舎へ戻った。仮眠をとって、その後購入した本を読む。

夕食を食べに食堂へ。本日はハンバーグであった。

部屋に戻り、野球を見つつ読書。中日対広島は 1-1 で引き分けた。買った本を読み切り、シャワーを浴びて就寝。

明日からはどんな 1 週間になるのでしょうか？

8 月 22 日 (月)

朝タクシーで病院へ

昨日の当直 (西島先生) : 救外 2 件、分娩 2 件。

AM 外来 : 服部、病棟 : 西島先生 (分娩 1 件)

PM 外来 ; 西島先生。 服部は外来が 2 時近くまでかかり、その後オペ室に入るが、帝王切開の手洗いはしなかった。

当直 (服部)

①子宮留膿症 (92 歳) : 慣れた看護師さんがついてくれたおかげでスムーズに処置出来た。子宮腔内洗浄も行ったが、貯留は少なかった。翌日外来受診として帰宅。

②子宮外妊娠 : 腹腔鏡手術へ、千坂先生 (科長)、長沼先生 (婦人科ローテーター) を呼んで手術。予想以上に腹腔内の癒着が強かった。

③進行流産 : 子宮頸管内に胎嚢が出てきていたため、外来でそのまま排出させた。→帰宅。

そうこうしているうちに病棟で分娩あり、間に合わず、左右陰唇内側表面が切れてしまった。

8月23日(火)

午前 病棟で処置。 午後外来。

16:30 過ぎに病院をでて宿舎へ。途中のコンビニで飲み物を買った。

宿舎ではコインランドリーで洗濯をする。宿舎の裏の掘っ立て小屋に洗濯機2台・乾燥機4台が設置してあった。洗濯機は1回200円、洗剤は無料で貰えた。乾燥機は30分100円。30分では乾燥せず、60分かかった。

風呂場の排水溝のにおいが気になったが、シャワーを浴びて、PM10:30頃に就寝した。

8月24日(水)

AM 外来、PM オペ

帝王切開 1件目 長谷川先生、服部、研修医①

帝王切開 2件目 千坂先生、西島先生、研修医②

当直：服部

夜間救急からのコールなし。病棟からのコール1件。



8月25日(木)

AM6:52 正常経膈分娩

AM 病棟、PM 外来

昼食は病院の食堂で、うなどん+おろしそば(700円)。おろしそばはなんと温かいつゆのそばに大根おろしが入っていた。福井のおろしそばがあたり前だっただけに大変ショックだった。(注：このころは福井にもあたたかいおろしそばを出す店があることをしらなかった)

夕方、タクシーで宿舎まで戻り、すぐにそのタクシーで被災地を案内していただいた。

まずは日光山：ここより市内が一望できた。海側は津波の被害が甚大であった場所、9割は建物がなく、家が建っていたであろう跡には、雑草が生えていた。その中に市立病院がポツンと残っていた。未だ市立病院は再開のめどがたっていないとのこと。旧最上川の中州にも建物がたっていた跡が見えた。その中州にかかっている橋は、津波の時は家や舟が沢山ひっかかり、その下流の堤防が決壊したとのことであった。日光山をタクシーで下り、海側へ。このあたりは土地が低くなり、潮が満ちてくると一面水につかるとのことであった。周りは家の土台や、コンクリートのガレージ、残ったわずかな家も無残な状態であった。家の窓はなく、家の外枠だけがのこった感じであった。道は凸凹、低いところはずっと水につかっていたままであった。日光山の麓に小学校があった。ここには流されてきた車のガソリンに引火し、火事がおこり、まさに焼け落ちた無残な状態、とてもカメラを向けることはできなかった。

市場に行く。仮の市場でかつおの水揚げが再開したそう。ちょっとした希望の光になっている。旧市場は建物の外観は残っているが、中は津波が通り抜けた痕。左右に広がった軒は流されてしまったそう。防波堤には沢山の残骸と船が残っており、言葉にならない。この岸壁も地震により傾いて、先端は海につかっていた状態。岸壁の街灯は津波のために折れ曲がっていた。

その後、“幸助”という牛タン屋に連れて行ってもらい、帰り道を教えてもらって、タクシーと別れた。そこで牛タン定食(1500円)+ハラミ1人前(1000円)を食べる。牛タンもハラミもおいしかったが、ハラミのほうがおいしかった。しかし、とにかく“辛い”ものが多い。焼肉+野菜の漬物+テールスープ、どれも辛かった。

歩いて宿舎に帰る。途中、やはり匂いが気になった。シャワーを浴びて、就寝。

8月26日(金)

タクシーで病院へ。

当直 西島先生は大変忙しかったようだ。5件の経膈分娩と、救急対応多数とのこと。

AM 外来。 PM 外来 (1か月検診)。

常勤 Dr.は、PM 手術。帝王切開後に円錐切除を行い、合間を縫って腹腔穿刺をしていた様子。同時に前期破水の患者さんが2人いた。1人は経膈分娩、もう一人は促進していた。

夕方に①阿部クリニックより妊娠 39w、妊娠高血圧腎症の母体搬送を受け入れた、②陣痛促進をしていた患者さんに胎児機能不全が出現した。4cm開大、St-2 のままで分娩停止となっていた。①をまず長谷川先生と西島先生で帝王切開を行った。円錐切除の終了後に、②を千坂先生と服部で帝王切開とした。

当直は服部。その後は平穩 (夜間は病棟からのコールが2回のみ) であった。

8月27日 (土)

AM9:30頃 千坂先生に申し送り・挨拶をし、病院を後にした。病院前で写真を取りタクシーへ。石巻専修大学近くの瓦礫置場をみた。近くには仮設住宅が幾棟も建っていた。

松島経由で空港へ。途中、奥松島の津波の被害があったところも通ってもらった。家の門のみが残っている場所もあった。ここも人が住めなくなったそうだ。

松島は、水はついたが、被害は少なかった様子。小島の陰で津波被害は少なかったそうだ。萩の月を買った。タクシーの運転手さんにたい焼きをごちそうになった。その後高速道路を使い、仙台空港へ。

荷物を預けて食事をしようとするも、3Fのレストランはまだ再開しておらず。牛タン弁当を買って食べた。やはり、味付けが辛い。ベビースター (仙台限定) を買い中へ。定刻通り飛行機は出発。

13:35→14:40小松着。ほっとした。タクシーで福井へ。天気も良く、緑も全体にイキイキとしているように感じた。西島先生宅により、その後日之出の自宅へ。やっと帰ってきた。1週間はやはり大変だったと思う。福井はやはりマイタウン・マイホームの感じがした。



8月20日から27日の診療支援のまとめ

①17件の分娩を担当した (うち経膈分娩 11件、選択的帝王切開 2件、緊急帝王切開 4件)

②1件の婦人科緊急手術を担当した

③救急患者を多数診察した

勤務体制は、日勤 → 当直 → 日勤 の36時間勤務です。当直帯は、常勤医の先生方に休んでいたために、福井大学から派遣された2名で分担しました。気持ちで乗り越えましたが、体力的には1週間が限界でした。

以上、3年前の記録を振り返りました。今年は、マー君の大記録とともに、楽天イーグルスが日本一になり、本当に良かったと思います。日本シリーズの最終戦、9回の表にマー君が登場したときは、感動で目頭が熱くなりました。1日でも早い東北の復興を願っています。

